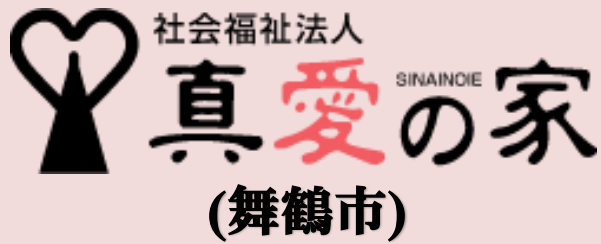


障がいのある人の雇用に取り組む



「京都はあとふる企業」です

【主な事業内容】 特別養護老人ホーム、ディサービス、訪問介護等
【障がいのある人の主な仕事】 介護補助、共用部分の清掃、洗濯など

【障がい者雇用の経緯】

社会福祉事業を営む事業所として、20年以上前から障がい者雇用に取り組んできました。現在、4名の障害のある人が、介護補助や共用部分・トイレ・階段等の清掃、入居者の衣類の洗濯と居室への配達、入所者のサポート(コップ洗いなど)の仕事に携わっています。

特別支援学校やハローワークなどからの紹介があった時、その人に合った仕事を切り出すことが出来たら採用してきました。体験実習も出来るだけ受け入れています。

【Yさんに聞きました】

2年目です。特別支援学校を卒業後就労しました。清掃と洗濯・配達を主に担当していますが、時間があると入居者の居室でコップ洗いや新聞の整理などもします。

最初は不安だったけれど、今は楽しく働いています。入居者から「ありがとう」と声をかけられると嬉しいです。

休日は水泳や料理もしますが、今は仕事に慣れることが、一番の目標です。

【介護という人と接する環境の中で】

重度の聴覚障がいのある人で、短期大学で介護の国家資格を取得し勤続19年になる人や、読み書きや計算が苦手でも何回も試験に挑戦し、介護の国家資格を取った人もいます。

福祉の仕事に魅力を感じ資格に挑戦されるのは嬉しいことですが、介護は時には咄嗟の判断が重要なことがあります。入居者へのケアについては、自立度の高い人のケアを任せます。他の職員の目が届く範囲で行う。個人の居室には入らない。など、ご利用者の状況に応じて、仕事の内容を調整しています。介護職でなくても、仕事を覚えていくと、少しずつ入居者との関わりも増えていきます。上長が見守り、疑問や問題がありそうな時は、ゆっくり話し合いをして解決します。特別支援学校や支援機関の実習も可能な限り受け入れています。



令和4年4月取材